



公共施設・税収増に繋がる施策について

公共施設の管理計画について

問 安中市公共施設等総合管理計画によれば、維持管理にかかる金額は年間約42億円で更新可能額は約12億円とあるが、個別管理計画の概要については。

答 限られた財源のなかで施設を長寿命化しながら、維持管理・更新コストの縮減・標準化をし10年間の施設の現状、対策の優先順位の考え方、今後の方針等記載しています。

問 役割の終わった施設や、利用頻度の極端に低い施設についての選別と具体的計画については。

答 施設の築年数や利用者数、施設の必要性を総合的に判断して具体策を検討していきます。

問 廃校となった校舎などの活用にについては。

答 個別施設計画に係るパブリックコメントで活用を望む声もあることから検討していきます。年度ごとの負担を平準化した

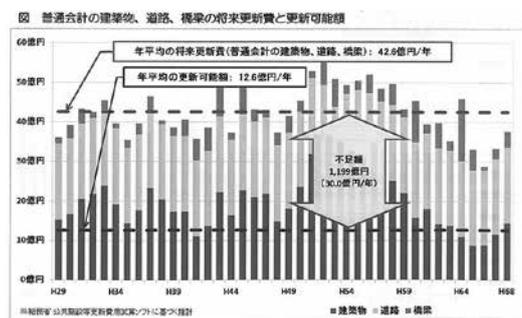
なかで、インフラ分を除いた一般施設管理の予算化については。

答 約8億円と推計されますが今後の社会情勢や財政状況を踏まえ具体的な金額計上となります。

問 庁舎などの、新規施設の整備については。

答 危険性の回避等の、物理的観点、機能的、経済的、社会的な観点を総合的に勘案して判断していきます。

その他、財政に与える影響、中期の計画について質問しました。



安中市公共施設等総合管理計画 (平成29年2月)より



交通安全対策・農業振興・畜産振興について

児童生徒の通学路の安全確保について

問 通学路の安全確保のために、通学路交通安全プログラムを平成26年に作成し、安全点検を実施してきた。過去5年間の実施状況は。

答 平成28年度は小中学校の合計33箇所、安全点検を行いました。29年度は合計32箇所、30年度は合計34箇所、令和元年度は合計39箇所、2年度は合計30箇所の安全点検を行ってきました。

問 通学路交通安全プログラムの成果と課題は。

答 通学路交通安全プログラムを策定したことにより、通学路安全確保のためのPDCAサイクルが機能するようになりました。多くの危険箇所、グリーンベルトやコーンポストの設置などが進み、安全運転への啓発を行っています。課題は、用地取得が必要な道路や歩道の拡幅など

予算や時間がかかることです。

問 通学路の安全対策は。

答 安全点検を踏まえ、歩車道を分離するガードレールや転落防止柵の設置に加え、注意を促す路面標示や標識の設置などの対策を行ってきました。今後子どもを命を守るための効果的な安全対策を実施していきます。

その他、耕作放棄地・遊休農地の有効活用、畜産の臭気対策について質問しました。



危険箇所に設置されたコーンポストと路面標示